

| 班 | 講 評 |
|---|--|
| 1 | <p>形式面の不備(表紙のチェック漏れ、字数制限)が散見されたので注意して欲しい。テーマに記載のある項目について、全て論ずることも重要だが、単に盛り込めば良いというものでもなく、全体の論理構成で結局何を最も論じたいかについて、留意しながら、論文作成に取り組んで欲しい。</p> <p>文章内容としては目立つものはないかったものの、全員、自分自身の意見を述べており、平均以上と評価している。</p> |
| 2 | <p>難しいテーマでしたが皆さんよく書いていました。一部の方はテーマで求められている事項(独立性及び倫理観、公認会計士を目指した動機、取り巻く環境)について章立てて書いていない。若しくは、しっかり関連付けて書いている方がいたので多少減点しています。テーマに合致した論を展開できているかが、ポイントだったので次回も頑張ってください。</p> <p>テーマは「公認会計士としてどのように社会貢献していきたいですか」がメインテーマであるにも関わらず、「独立性、倫理観の記述の割合が多くメイン主題の記載が少ない論文が多かった。ページ数が最後までないもの、章立ての無い論文もあり、形式面での不備も散見された。</p> |
| 3 | <p>補習所の記載が「修」の方が数人おりました。受験時代の構想から始まり、将来像についてつながっている論文が多く、全体的にはよくできていたと感じます。AIJについての言及が多いことが個人的に印象を受けました。</p> <p>採点したメンバー8名全て同じような構成内容だった。もう少し踏み込んだ内容となっていることに期待しています。</p> <p>字数が少ないため、公認会計士として今後どのように社会貢献していきたいかを、独立性や、倫理観、公認会計士を目指した動機、取り巻く環境に上手く触れながら、説得力のある理論構成となっているものは少なかった。</p> |
| 4 | <p>全体的に課題テーマの中に記載されているいくつかの事項が適切に章立てされ記述されている研究報告は少なかった印象である。また、形式不備が多い研究報告も散見された。第1回ということもあり若干戸惑った部分もあったかと想定されるが、今後の研究報告においては内容面の充実に加えて構成のバランスや形式面についても適宜留意ください。</p> <p>全体的によくできていたと思います。各個人の目指した動機など、興味深く読むことができました。“良い”が平均水準とのことでしたのでほとんどの方がそのレンジに入っていました。“優”にしたのは文章量、構成、内容共に他の人よりも良くできていたため。“可”の評価の方は引用箇所のフォントが異なっていることが影響したと思います。</p> |
| 5 | <p>全体的な印象として、会計士試験に合格したことによりこれから踏み出すキャリアへの希望と熱意、そしてその根底にある公認会計士を目指した動機についてよく伝わってきました。私自身も当時に抱いていた想いを再認識するとともに補習生の方々には活力を頂いたと存じます。また、補習生の方々には数年後にキャリアを積まれた際に一度立ち返ってこの文章を読み返して頂きたいと思わせる内容であったと存じます。一方で、公認会計士としてどのように社会に貢献していきたいかという点が今回のテーマであり、補習生の方々の中にはご自身の目指す姿を熱く語りすぎるあまり、その姿がどのように社会貢献に結び付くかという点にあまり言及されていない文章も見受けられました。また、今回は比較的自由度の高いテーマでしたが、課題研究である以上、ご自身の構想や公認会計士法の基本的な条文のみではなく、書籍や雑誌等の外部の情報源も参考にして言及されると一層よい内容になるという印象を受けました。形式面については章立てがなかったり、頁数がなかったりするケースが見受けられました。細かい点で息苦しく感じるかもしれませんが、業務上は形式面も品質の一部となるため、提出前のセルフチェック等に一層注意していただきたいと存じます。</p> <p>今回の課題研究のテーマ「今後どのように社会に貢献したいか」に従い、皆さんの高い志や目標を色々知ることができました。次世代を担う皆様には、初心を忘れず、夢を実現して欲しいと大きく期待しています。なお、第1回目の講評ということで、今後に向けて、今回、形式面で減点した論文を紹介します。今後ご注意ください。①論文が両面印刷で提出されていること②論文に全く章立てがない③論文に表紙が手書きかつ誤字を二重線で訂正している。形式面と侮るなかれ。今後皆様が付き合うハイレベルな方々は、形式が整っていないと内容の説明すらさせてもらえないような人もいます。プロとして人に書面を提出する際は、緊張感をもってください。</p> <p>今回の課題研究は、受験勉強の中でも学習してきた論点であったこと、また、公認会計士を目指した動機や社会貢献については就職活動の中で考えていた内容であったことから、比較的論じやすかったのかと思います。実際によく書いていた論文も多数ありました。一方、論文で章立て(構成)と各章の記載内容を関連付けることで論文のテーマへしっかりと回答する必要性がありました。具体的には、独立性・倫理観・動機、環境について論じた上で、あなたの公認会計士としての社会貢献の在り方を独立性・倫理観、動機、環境に絡めて記載することが重要でした。独立性・倫理観、動機、環境の記載部分と社会貢献の記載部分がそれぞれ独立して記載されている論文が少なからずありました。</p> <p>実際の仕事の現場でも、把握した現状、監査手続の結果及び結論を上司へ報告する機会があると思います。報告の際、沢山の情報から選択し、どのように報告するかが重要になります。課題研究も研究成果を報告する場ですので、課題研究を通じて、研究内容はもちろん、研究内容の報告方法の重要性も認識し、取り組んでいくとよいと思います。</p> |

| 班 | 講 評 |
|----|--|
| 41 | <p>「引用」と「丸写し」は、まったく違います。 「引用」とは、複数の他人の論文を比較・検討・分析・優劣判断を行うことです。 たった一人の論文を「丸写し」することは「引用」とは言いません。</p> |
| | <p>テーマに記載されている「公認会計士に求められる独立性及び倫理観」、「公認会計士を目指した動機」及び「公認会計士を取り巻く環境」といった事項について章立てして記述している研究報告書が多かった点は評価できます。 しかし、それぞれの事項を関連させながら論理展開している研究報告書は少なく、メインテーマである「公認会計士として今後どのように社会に貢献していきたい」かとの関連も不明瞭なものが散見されました。 研究報告書のような論文は限られた文字数の中で結論をより明確に伝えられるよう論理展開することが重要です。今回の課題における上記事項のようなサブテーマはメインテーマをサポートするような内容であると説得力が増します。 形式面ではページ数の誤り(記載の無いものを含む)がありましたので、提出前の再確認を忘れずに実施してください。</p> |
| | <p>一般的なテーマの中でもそれぞれの環境において感じていること、具体的な提言がされているレポートがあり良かった。</p> |
| | <p>公認会計士の社会貢献について明確なイメージを持つことは、自身の基礎となる職業倫理や独立性に対する理解を深めることに繋がり、そうした個々人の意識の高まりや働きによって公認会計士としての社会的存在意義が維持されているのだということを、この先も忘れずに業務に携わって頂きたいと思います。今回の採点でいくつか気になった点がありましたので形式面、内容面に分けて説明します。まず、形式面ですが、引用及び参考文献・出典についての記載ルールに対する理解が十分とは言えない誤りが散見されます。一度、記載ルールを確認し、間違いをしないように気を付けてください。また、内容面では伝えたいことを盛り込むあまり文章が冗長となったり、意見でなく語句の説明に終始している場合があります。公認会計士に限ったことではありませんが、相手に意図した内容を明確かつ簡潔に伝えることは、仕事を円滑に進める上で必要不可欠です。相手に伝えるというスキルの大切さを理解し、磨いていって欲しいと思います。</p> |